

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
分担研究報告書

過疎地域等における急性心筋梗塞の急性期治療の体制整備に関する研究

研究分担者	檜垣 實男	愛媛大学大学院医学系研究科 病態情報内科学	教授
	相引 眞幸	愛媛大学大学院学研究科 救急医学	教授
	大木元 明義	愛媛大学医学部附属病院 循環器病センター	准教授

【研究要旨】 本研究は、地方4県を対象に都市部および過疎地域を含む医療圏における急性心筋梗塞に対する診療実態を分析することにより、各医療圏における問題点を抽出し、特に過疎地域における急性心筋梗塞の救急医療体制について検討する。

A. 研究目的

各医療圏における急性心筋梗塞に対する診療実態を分析することにより、各医療圏における問題点を抽出し、特に過疎地域における急性心筋梗塞の救急医療体制について検討することである。

B. 研究方法

医療圏ごとの急性心筋梗塞の発生状況や救急医療体制や予後に関する現状分析を行う。愛媛県の主要救急病院に依頼し、急性心筋梗塞患者の各種情報を Web 登録する。

(倫理面への配慮)

本研究はすでに中央施設と当院の倫理審査会で承認済である。

C. 研究結果

愛媛県内の PCI 施行施設 15 病院中 9 病院から協力が得られた。倫理委員会で承認された施設では、Web 登録が開始された。昨年度の報告以来、385 症例が新規に登録され、計 395 症例となった。

D. 考察

急性心筋梗塞の発症が年間 10 万人当たり、

60 人の発症と考えると松山市で約 300 人、愛媛県内では約 900 人の発症が推測される。今回の集計では、松山圏域での登録が 243 人であり、発症例の約 80%、愛媛県全体では、約 45% が Web 登録されたと推測している。今後、データの入力を完了し、データクリーニングを行った後、愛媛県内での急性心筋梗塞の発生状況、治療状況、予後を検討していく予定である。

E. 結論

平成 25 年 1 月 1 日から平成 25 年 12 月 31 日までの 1 年間に 395 症例が登録された。約 4% で緊急 PCI が施行されていなかった。患者の生死の転帰がフォローできた 291 名中 22 名 (7.6%) が死亡した。今後、愛媛県内、また他の研究施設との詳細な比較検討を行っていく予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録

なし